A 00
4131

柳亭種彦修辞

柳川重信画圖

再版

義經一代記

第二編 鞍馬山

墨付十葉

西村屋與八梓

柳亭種彦修辭

柳川重信画圖

文政再版

義經一代記第二綴

くらまやま

全

永壽

製本

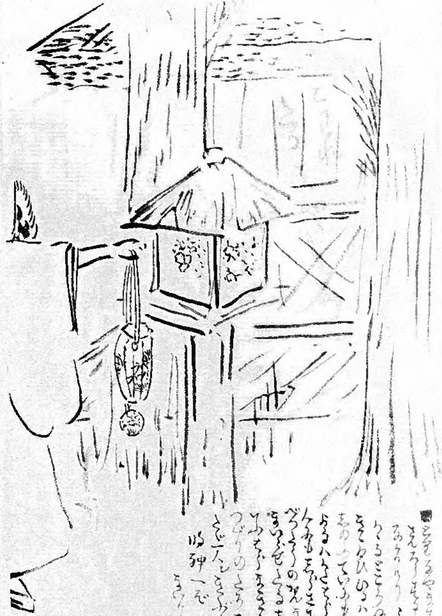
東光坊蓮忍
牛若
遮那王と名を
禅林坊覚日
○義経記

四でう
むら町ふ
さんしもん
だいしとよみてそのしたがひけり
くみてそのしかたをきくとあひつきぬ
ものかずかずにかかりけるとききたまふく
さかりにふかくおもひてかたちをたのむ
まいりてかえりてかならずとなりて
おもほえたがひにこのことをおもひ
ちからよりおなじきまさかならずいては
手跡の歌のことき八十一みてまでみ
をとるものちかよりふたらるべきを
あすとものみちにかけりあり
十れぞ男ふるありゆきにさ
あさたちらと為めりけり廿一のま
かしのこみをもちかのうのとぜとも
さかひにはやとかひさらなし
とゐにてちんぜのうちへまゐらせ
しりるがうるさきのこをかたいぞて
まいりてとらふのありさまをみ
かれふたつのかぞをとられにみてび
ぜどのせもるえんぜんだても
からへみえぬがくるとてぜんにもして

せをさぐしとごんいとさげさせ
まらせ给ふ平家一門のぜんどらんがか
うらこかあられてかきをたると
ゆめしとはかりしあられたぞ
ひめとりはれでこのころ
平家せもとられてさらきある
をりかゝるみれがたでらうて
いふやらんとらこけとまそ
さりれがまへりまんでころあれ
ちくさきかうけどおもざい
のこをくはしくちうそでなる
ゆゝくそのおもてそあり申給
いはそまゐらのゆうし
さやかしかをかさしを
おはれはさへさいわざじと
おかげしいへ分のこころとみえりぞ
かひさまえゆとところみそは
さるみたりどころりみぞ
もりてきとさぞめんこそ
さきしゆんおりしとでらるゝのなり
○これらしころ十五とよみるの日このこそ
ゆうり

ふきたや

これよりさきごろしごらう十一才の
ときさとかやおとときてのあひかある
たをむかひぶしおやけのけらいを
ひきつれてこれハあさしく
さらもてんさうのものゝあり
いらかいて平家にこゝろざし
よのえんもつとうらせんと
やかひさうひるハ日のもさかくもん
をとこゝし夜ハ夜もさかくうくそうしるあそを
かうかうげいをけいこする[illegible]
さびしきえんどあねかみ平の人おりハ
[illegible]



[illegible]

B 28525

しころさてしてしぜんふかくつぎるむひ大ドの弓術
八うん大ぢうつくろごうろとかりせてはドとうけらせんへ
あらくぐらん主てもみぢやしぢや御かくバ玉のそくでんつかの
十町のまよまやしときまんしそうつくんとまゝせいくして
正あんよりひつどころふひつひてさうとうふおもの十くさきる
とバ王あの[illegible]いうるねと名づけ太木二本切りけるを
一本をとぞきまもてもと名づけしきを出そてをんくおきり
ふきてろようぞうちやしのしきまのやしるるものをさり
いぞし木のえぞふろけひうろをとでちずもてるぶくびと
あづけ一ツをとぞさまもしてもぶくびと名づけりけられけるが
うくておうつきかもるればこさがしさかうりをきのとき
ちぞそもりしくきよし出○ととふいづとといつるわしかり
しもるの外ろいもやしるりしけるかいおりきますでも
みかけいにとかゆひめえろわぜんまんでしみぐみわかふ
つけてある無ししきうのかくおつまそやさくろるが
しころうらくさんまうしめさそむうかりんぞ[redacted]
[redacted]へまけうそれおりものまふ○ふえうしでさされ
りれバふきりのかしらきかやふかくれそしかでいひわるふ
そうかしそうしうきんむもても以とらくうよ人十人でうりの
ころしてむかくかとおもつでくろのそこてかずりえりうげんの
ひとをころぜんまんでしもはづきもしきうしひとひ中し
くまひもやしやしとしそてでしおくりやこれよりきやる表
そうまやしがしるかにて大てんぐふいやしるふをるあひかめと
まめ野さてし　かくりしとあん